



『イスラエルの小さな村の中の一軒の家にルカという男の子が、お母さんと住んでいました。ルカは お母さんから 神様の話を聞き一緒に祈りをして 聖書を読み 讃美歌を歌うのが大好きです。ルカは 神様のことを想う度 神様に守られている大きな安心感に包まれました。また 神様のひとり子であるイエスさまの話を お母さんから聞きました。イエスさまは このイスラエルの国に生まれ 神様の愛を 伝えるため 国中の あちこちへ行かれて、病気の人や 貧しい人、苦しみや悲しみの中に在る 大勢の人に会い 励まし 祈り 慰め 癒され 希望を 与えられました。イエスさまに会った人たちは皆 心が元気になる、神様を信じるようになりました。

お母さんから その話を聞き ルカは イエスさまに会いたくて毎日 神様にお祈りするようになりました。そんなある日のこと、仲良しの友達シモンから 自分達が住む村にイエスさまが来られることを聞き 大喜びで イエスさまへのプレゼントを考え、お庭に咲いているお花を贈ることに決めました。そしていよいよ、その日がやってきました。早起きしたルカは お母さんやシモンと一緒に イエスさまが来る公園へ 急ぎました。村中だけではなく 隣町や他の場所から 続々と集まってきていた 老若男女の人波に押され、大人達の壁で ルカもシモンも イエスさまの姿は全く見えません。何度となく背伸びをしたり、ジャンプをして頑張りましたが、小さなルカ達にはイエスさまを見ることは出来ません。中に入ろうとしても 大人達に弾き飛ばされ、思わず「イエスさま！」と呼んだ途端「コラ〜ッ！うるさい！」と怒鳴られてしまいました。ルカもシモンもがっかりしたまま 地面に 力なく座り込んでしまいましたがその直後 ふと顔をあげた瞬間でした。驚いたことに大人の足と足の隙間から、真ん中にいるイエスさまらしい白い洋服が見えたのです。そこで 2人は「ここから行けるぞ！」と 笑顔でうなずきあい、再び 元気を取り戻しました。プレゼントのお花を 胸ポケットに そっと入れルカは 大人達の足のトンネルを まるで 子犬のように潜り抜け とうとう真ん中までたどり着いた途端に 「あっ！」と驚きの声をあげてしまいました。優しい笑顔で天を仰ぎながら、手を広げながら 静かにお話をされている イエスさまが、ルカの目の前に立っていたのです。ビックリしながら見つめていると「ルカ おいで！」と優しい声でイエスさまが両手を広げていました。「僕の名前 知ってるの？」と 初めて会う イエスさまから 名前を呼ばれたルカは嬉しさにドキドキしながら 元気に返事をする、そのまま抱き上げて下さいました。そして「イエスさま！これ…」と、持ってきたお花を渡そうと差し出したその瞬間でした。「こらっ！何やってる！先生が迷惑だから子どもは 向こうへ行きなさい！」とイエスさまのお手伝いをしているお弟子さん達に一斉に怒られてつまみ出されそうになりました。2人は 思わず涙が

溢れてきた その時です。「子ども達を邪魔者にはいけません！」と イエスさまの厳しい声が 響き渡りました。そして「さあ 子ども達は 私のもとに来なさい」の温かな言葉を聞き一斉に そこにいた子ども達が 大喜びで駆け出して行きました。イエスさまは、ルカを再び抱き上げながら「ありがとう」と 優しい笑顔で プレゼントのお花を 受け取ってくれました。続いて イエスさまのもとに集まって来た すべての子ども達を抱っこしてルカと同じように 神様に祝福のお祈りをして下さいました。最後に、弟子達と周りの大人に向かってゆっくりと諭されました。『もう一度言います。子どもを決して邪魔にしたり虐げたりしてはなりません。子ども達を私のところに來させなさい。神の国は このような者のものです。神さまは何より子ども達を愛されていますよ。』 ルカはイエスさまのことが 一層大好きになりました。』

先々週 金曜日の 花の日・こどもの日の礼拝で 語ったお話です。

子ども達は 皆、ルカと一緒に なって 笑ったりびっくりしたり悲しんだりの 七変化でした。ルカがイエスさまに抱っこされた時の 皆の顔は ニコニコで 何とも言えない 安堵感に満ち お弟子さん達がイエスさまに叱られた時は、何とも得意げで 可愛い表情をしていました。

イエス・キリストは 誰よりも子どもを愛されました。また、世の中の弱い立場にいる人や 貧しい人 物言えない小さな存在にこそ 目を留められ 慈しみ 真っ先に手を差し伸べられて大切にされました。このイエスさまの深い愛と みこころをいつまでも覚え、表していこうと 祈りをひとつにして 1856年に アメリカのレナード牧師が 世界中の子ども達の心身の 健やかな成長を願う特別礼拝を 6月の第2日曜に行いました。それからその後の1870年 マサチューセッツの教会において 子ども達ひとりひとりの小さな心や個性を 色とりどりの 花々の美しさと清らかさに重ねて、その成長を祝福するという「シャロンのバラの礼拝」が行なわれました。その両日が同じ日であったことから、やがて『花の日・こどもの日礼拝』として、全世界のキリスト教会に広まりました。

今年は、6月14日(日)に、全世界のキリスト教会においてお祝いされました。

つのぶえ保育園では、5日遅れになりましたが 19日に 各ご家庭より きれいなお花たちを持ち寄って お部屋に飾り その中で 心温まる礼拝を行いました。たくさんの 色鮮やかで 可憐な花々に囲まれながら 一つ一つが 神様の御手によって創られたその御業であることに 共に礼拝できることの幸いを、心より感謝しました。この時をお祝いし、ささやかですが、日頃の感謝をこめて 皆様にお花をお贈り致しました。世界中の子ども達ひとりひとりの上に、神様の平和と 溢れる御愛と御恵みが注がれ続けますよう 心よりお祈り致します。(石田 記)

「イエスは 小さい子どもを 呼び寄せ、彼らの真ん中に 立たせて 言われた。・・・

子どものように 自分を低くする者が 天の御国で 一番 偉い人です。

また だれでも このような 子どものひとりを 私の名のゆえに 受け入れる者は

わたしを 受け入れるのです。 (新約・マタイ伝 18:3-5)